

事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス  
おとつむぎ / おとつむぎ南郷

公表日 2025年 3月 20日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準よりも多く配置している。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	トレイの仕様がバリアフリーではないが、それ以外は段差等なく、児童が安全に過ごせるよう、また、掲示等で構造化を図っている	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動内容別に室内を区切って使用している	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎週の全体会議で実施している	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		各種研修を実施している	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		担当者会議を行い、各部門からの意見を聞いて作成している	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画はシステム上でいつでも閲覧でき、確認の上で支援にあたることができるようにしている	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別療育と小集団療育を適宜組み合わせ、時間割を組んでいる
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		シフト制のため全員オンタイムでの振り返りを行うことが出来ないが、システムを利用し情報共有はできている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○		
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		日常的な情報共有（主に送迎時）や支援会議等、保護者の意向も確認しながら積極的に行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			該当者なし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		自宅で可能な取り組み等情報提供は行っているが、機会は少ない。ペアトレも未実施であり、今後検討したい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○		保護者会の実施はなかったが、保護者が参加可能な行事は実施している。今回は保護者のみの参加だったが、今後は兄弟の参加も検討したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスおとつむぎ / おとつむぎ南郷		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 17日		令和7年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 24日		令和7年 3月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	言語聴覚士と音楽療法士によって考案されたおとつむぎオリジナル専門プログラム「おとのこえ」を展開している。音楽と言語をかけあわせた専門プログラムは、唯一無二であり「聞く力」「声に出す力」「コミュニケーションを取る力」の底上げを図っている。	言語療育は完全個別制だが、「おとのこえ」ではお子様の状況に合わせてコミュニケーション面で実践的に活動できるようグループセッションにも対応している。	現在、月に一度、言語聴覚士と音楽療法士が会議を行ないプログラムのブラッシュアップを行っているが、更に充実した幅広い内容が展開できるようミーティング回数の増加を検討していく。
2	言語療育についてはどの児童も完全個別制でセッションを受けられるよう対応している。	継続した専門的なトレーニングにより自発的な発声・発語・発話を促すことはもちろん、指さし・身振り・サインや言葉、文字・記号等を用いて、環境や相手の意図を理解したり、自分の考えや気持ちを表出・伝達する力が着実に身に付くよう取り組んでいる。	言語療育の中で取り組んだことを「その他の療育時間」で実践できるよう、職員が細やかに情報共有を行ない、効果的なプログラム立案を行っていく。
3	弊所療育アドバイザーである臨床心理士や小児科医による個別相談会を行ない、子育ての悩みや家庭内の養育について相談の機会を設けている。	事業所職員だけでなく、数多くの事例を見てきている専門家による相談会を行なうことで、ご家族の子育てに対する困難度の軽減を目指すと同時に、ご家族が課題解決への意欲を持続けられるようサポートしている。	個別相談会だけでなく、専門家による保護者向けの研修会や講演会も企画・実施することで、ご家族の知識や理解が深まるようサポートしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	未就学児から小学校低学年の児童が大半を占めており、小学校高学年以上の児童生徒の小集団での活動が組みにくい面がある。	乳幼児健診で言葉の面での指摘を受けたことから「言語聴覚士がいるデイサービス」としてお問い合わせをいただくことが多いため、新規入会については年々低年齢化が進んでいる。	利用曜日を検討し、特に小学生はできるだけ年齢の近い集団が組めるよう配慮する等工夫していきたい。
2	交通量の多い通りに面していること、療育時間中は個別での専門的支援が順に組まれていることなどがあり、日常的に戸外へ出での活動は展開しにくい。	保護者からのニーズとしては、特に戸外活動を望んでいる様子がないこともあり、プログラムとして積極的に導入しておらず、地域に開かれた療育展開ができていないのが現状。	地域との関りやつながりが持てるような企画、取り組みを検討していきたい。
3	卒業する児童が少ないため、利用希望者の待機が多い。	年度途中での卒業(退会)は少なく、お問い合わせをいただいても速やかにご案内することが難しい。また、ほぼ全員が送迎を希望しており、人数の空きがあっても送迎が難しいことも多い。電話受付の段階でその旨伝えていたが、待機希望者が多い状況。	空きがでた場合にはスムーズにご案内できるよう、方面別の送迎ルートやご利用日の工夫等検討しながら、調整を進めていく。